

前回自然環境部会（令和5年9月8日開催）における  
「次期北海道生物多様性保全計画について」に対する主な御意見

関連部分	御意見
全般	道民の意見を聞くのはパブコメだけで良いのか。他の地域ではフォーラムを開いたりして意見を聞くプロセスを設けることもある。できればやった方が良い。また、道は定期的に環境関係団体とオンラインによるダイアログ（討論・意見交換）に参加しているが、そうした場の活用や、協議の経過として計画に記載してはどうか。
全般	北海道生物多様性保全計画が、他の計画等とどのような関係にあるのかを示す図の記載があると、わかりやすい。
<資料2ページ> 中期目標	国家戦略では副題に明確にネイチャーポジティブに向けたロードマップとある。地域戦略は国家戦略との整合が重要。ネイチャーポジティブの用語を入れるべき。道民にわかりにくいということであれば、用語集等で整理すべき。 国の戦略では、ネイチャーポジティブについて書かれている。国家戦略でいうネイチャーポジティブは、止め、反転させること。資料にある「低減」は、止めるよりも緩く、後ろ向きの印象を受ける。ネイチャーポジティブまで行かないのだということが道の考えであれば、ネイチャーポジティブという文言を使わないことも理解できるが、国の戦略で言っているのに道はやらないのかという感じがする。 「低減」というとまだマイナスで、回復傾向にするということはプラスにかえなければいけないので、「低減させ、転換を図る」という表現は、国家戦略と整合がとれていない。低減ではなく、止めるとしたほうが良い。ネイチャーポジティブという言葉は、言っていることが同じであればあまりカタカナ用語を増やさなくてよいと思う。
<資料2ページ> 基本方針1 説明文	「直接的な要因への対処」とあるが、直接的ではないと対処しないのか。「直接的な」を取ればよいのでは。
<資料3ページ> 基本方針1 取るべき行動 30目	事業活動とあるがそれに限らないのでは。家庭の話もある。「事業活動を含む人間活動」とすればよいのでは。説明文には、人間による～とある。整合を取るためにも人間活動とすべき。事業活動とすると限定的になり誤解を招く。
<資料3ページ> 基本方針1 取るべき行動 50目	農林漁業者に限定されている。限定されているのは違和感がある。より広い意味の表現にすべきでは。 農林水産業と農林漁業と2つの表現があるので合わせるとよい。漁業だと水産加工が入らない。
<資料6ページ> 基本方針2 取るべき行動 10目	森里川海の標記だけでは越境の話が想起されない。越境を意識するなら、「渡り鳥に象徴される世界的な生物多様性のつながりも考慮し」は入れた方がよい。 包括的に記載するのではなく、「国際的な生息地の保護」「森里川海をつながり」「上位種」の3つの観点から取るべき行動を記載してはどうか。
<資料9ページ> 基本方針3 取るべき行動 10目	トレードオフについては国家戦略でも書いてあり、シナジーとトレードオフはセット。国が脱炭素を推進する中で、ここははっきりと書くべき。相乗効果を書くならトレードオフも書くべき。
<資料9ページ> 基本方針3 取るべき行動 40目	アイヌ文化のことは伝統文化に含むとしてしているが、アイヌ振興は国の方針でもあり、簡略化した形ではなく入れた方がよい。
<資料12ページ> 基本方針4 取るべき行動 40目	駆除の理解が進んでいないこと、動物の命は尊重すべきだが、生活の上で駆除しないといけないことを理解してもらうことについては、基本方針4にあってもよい。 愛玩動物との関係を通じた意識の醸成であれば、環境教育で読み込むのもありうるのでは。 この部分は幅が広い。アライグマも愛玩動物由来。意識の不足が外来種問題にも通じる。行動として、きちんと書くことを考えてもよい。
<資料14ページ> 横断的・基盤的な取組 説明文 2■目	「背景となる昆明・モンリオール生物多様性枠組」とあるが、義務付けられたものなので、「前提」とした方がよい。